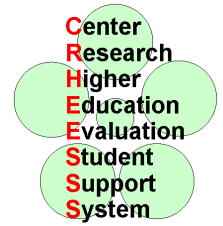


週刊センターニュース No.319



第319号(2010年8月2日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

○●○ 「学びの空間が大学を変える」セミナー参加報告

ーラーニングコモンズにおける学習支援についてー ○●○

2010年8月3日に開催された「学びの空間が大学を変える」出版記念セミナーに参加した。はじめに名古屋大学 恒川和久氏より、名古屋大学の設備管理について、調査結果を踏まえながら講演があった。講義室の広さ、学生密度と講義室に関する満足度に関する調査で、学生密度と講義室の満足度は負の相関であり、学生密度が60%を越えると講義室満足度が下がることが示された。また講義室の面積が狭いと満足度が下がることや学部間で講義室稼働率も異なることも言及されていた。最後にキャンパスマスタープランとして30年後のキャンパス全体のデザイン検討が始まっていることが説明された。図書館を地下にし、地上をグリーンベルトとして、学生の人的交流を促進させるようなデザインを検討されている。

引き続き、東京大学大学院情報学環・准教授 山内祐平氏、同大学教養学部附属教養教育高度化機構 特認助教 林一雅氏より、ラーニングスタジオ(東京大学 Komaba Active Learning Studio: KALS)、ラーニングコモンズ(東京女子大学 My life My Library)、公立はこだて未来大学の事例について紹介があった。今回は本学にも共通するラーニングコモンズに関する部分について報告する。

KALS については KALS のデザインプロセスとして調査→コンセプトデザイン→レイアウト→什器類開発があり、フレキシビリティと学生と教員の利用方法との適合性、インフラとの関係性、空間意匠(見た目や空間との適合)の観点からデザインが行われたという報告があった。ラーニングコモンズについては東京女子大学の My Life My Library の紹介があった。図書館内の飲食可能・禁止区域をゾーニングでコントロールしていることや、静かにする空間と協調的に学習を行う空間の切り分けをフロアで行っている点など紹介があったが、特に学習支援スタッフの組織化について注目すべき点があった。学習支援としてライティングや専門に関する学習支援などが行われているが、従事しているのは学生であり、学習支援者としてのキャリア形成マップができている点であった。学生からボランティアスタッフとなり、そこからサポーターとなる。サポーターの段階で図書館職員により、学生の適性を見て、システムのサポーターとなるのか、学習支援を行う学習コンシェルジュとなるのかパスが分かれる。その支援者育成においても、基礎日本語、情報リテラシー講習、eラーニングなどのコースがあり、充実しているというものであった。支援者育成には図書館職員も関わっている。

最後のパネルディスカッションではラーニングコモンズについて、各大学で学生の特質などを見極めて、空間の設計や維持を考えるべきということや、地域開放と内部利用者の調整についても話し合われた。学習の場としてのラーニングコモンズは他の大学で設置されているものをその

まま用意しても有効に機能せず、学生の特徴や学習の分析などをしっかり見るという手間が重要になるということであった。地域開放としては是非するべきではあるが、外部利用者が混みあうと内部利用者からの不満も大きくなるため、うまい調整が必要となることが議論された。またラーニングコモンズを1つのコミュニケーションスペースとして捉え、1箇所集中型とするのではなく、キャンパス全体での設計において、拠点をいくつか作るというアイデアも出された。

しかし、このような魅力的な空間があれば、何かが変わるという考えを持つかもしれないが、そうではなく、空間は直接学習に関わらない。やはりその場で行われる学習や学習形態が重要であり、利用者が行いたい学習形態に空間が合わせるというコンセプトを持って設計する必要があるということであった。

本学においても中央図書館にラーニングコモンズが今年4月から始動した。具体的な学習支援や学習支援を行うための設備類の補充は検討中である。それゆえ、正確にはまだラーニングコモンズとは言えない状況にある。今回のセミナーの参加により、本学で必要とされる学習支援と設備類の検討について多分に参考になった。特に学習支援者の育成は本学ラーニングコモンズにおいても早急に検討すべき、最優先事項でもある。利用者である学生、教職員の皆様からも希望される利用形態については是非ご意見を頂き、充実したラーニングコモンズの運営を行いたい。

(文責：教育支援システム研究部門 山田 政寛)

〇〇〇 新着資料のお知らせ 〇〇〇

大学教育開発・支援センターに、全国の大学・大学教育センター等から各種報告書が届いております。特色 GP や特別教育研究経費によるプログラムの成果（途中経過）をまとめた報告も含まれております。資料は、図書室（総合教育1号館6階613号室。センター共同研究室向かい）に所蔵しております。ご関心のあるもの、参照したいものがございましたら、お貸しすることができますので、ご連絡いただければ幸いです。

- ・ 『平成19年度 文部科学省 社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム採択事業「体験と協働を核として社会力を育むキャリア教育プログラム」最終成果報告書』島根大学教育開発センター、2010年
- ・ 『大学教育に関する職業人調査 第1次報告書』東京大学 大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター、2010年
- ・ 『平成19年度の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」 ICT活用教育のFD/SDプログラム 人材育成の一翼を担うICT活用教育の質向上を実現する研修プログラムの開発と普及 2009年度（平成21年度）成果報告書』青山学院大学 ヒューマン・イノベーション研究センター、2010年
- ・ 『「一年生調査 2009年」調査報告書 平成21年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム』同志社大学 高等教育・学生研究センター、2010年
- ・ 『平成19～23年度文部科学省研究補助金研究成果・最終報告書 「大学の『教育力』育成に関する実証的研究-学生のキャンパスライフから考察-』上智大学総合人間科学部教育学科、2010年
- ・ 『平成19～23年度文部科学省研究補助金（基盤研究（B））研究成果・中間報告書 大学の「教育力」育成に関する実証的研究-学生のキャンパスライフからの考察- 『キャンパスライフと大学の教育力-14 大学・学生調査の分析』上智大学総合人間科学部教育学科、2010年